

# CASBEE® - 建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)吹田市佐竹台 計画	階数	地上10F
建設地	大阪府吹田市佐竹台	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	260 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年5月 予定	評価の実施日	2026年1月21日
敷地面積	4,631 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社日企設計 一級建築士事務所
建築面積	1,547 m <sup>2</sup>	確認日	2026年2月3日
延床面積	11,017 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社日企設計 一級建築士事務所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.9

#### Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.1

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

#### LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.2

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.3

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	内装材はほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用し、室内環境への配慮を行っている。また、外構にはできる限りの緑地を設けている。	その他 特になし
Q1 室内環境	内装材はほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用している。開口部遮音にT-2以上の性能を採用している。	Q3 室外環境(敷地内) 外構にできる限りの緑地を設けている。
LR1 エネルギー	LED照明を採用。	LR3 敷地外環境 広告物照明を行っていない。
Q2 サービス性能	情報社会に対応しCat6を導入している。	
LR2 資源・マテリアル	ノンフロン断熱材を採用。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称	(仮称)吹田市佐竹台 計画						
建設地	大阪府吹田市佐竹台						
用途/区分	集合住宅						
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					3	
③	断熱性能					4	
		建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分			4	
④	エネルギー消費性能					3	
		建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分			1 評価対象外	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						対象外	
【評価項目】							
項目	評価内容					スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮					3.6	4
② みどり・ヒートアイランド対策							
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出					2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3.2 敷地内温熱環境の向上					4.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環境 2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制					4.0	4
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化					3.3	3
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用					2.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	-
その他							
先進的技術の導入	技術の名称			考慮事項			
特に配慮した事項							